

119番の仕方について

11月9日は119番の日です。1987年消防庁によって制定され、防火意識の喚起とともに、適正かつ迅速・的確な119番通報を呼びかける啓発活動を行っております。そこで今月は119番の通報要領などを紹介させていただきます。

通報要領

基本的には消防（通信員）からの質問に従って、落ち着いて答えていただければ大丈夫です。救急車を要請したい場合は下記の流れになります。

「例」

消防：「はい。119番消防署です。火事ですか、救急ですか？」

通報者：「救急です。」

消防：「救急ですね。どうされましたか？」

通報者：「夫がお腹が痛いと言っているんです。」

消防：「わかりました。すぐに救急車を出しますので旦那さんのお名前とご住所を教えてください。」

通報者：「名前が〇〇で住所が〇〇です。」

消防：「わかりました。最後にあなたのお名前と電話番号を教えてください。」

通報者「私は〇〇です。電話番号が〇〇-〇〇です。」

消防：「はい。救急車が向かいますのでお待ちください。」

このような流れになりますが、このほかに怪我の程度や意識の有無を聞いたり、場所がわからなかった場合に外に出て誘導してもらうこともありますので、よろしくお願ひします。火事などがあつた場合などでは、現在の状況や出火場所、逃げ遅れている人がいないかなど聞くことがあります。落ち着いてお答え下さい。



救助訓練の車両提供を受け訓練を行いました

富良野消防署南富良野支署は、(株)南富自動車サービスエリア工場敷地内で交通事故を想定した救助訓練を行いました。同事業所から提供を頂いた4台のスクラップ車両を使用し、現場における救助活動を効果的に行うための高度で専門的な知識と救助技術の向上を図りました。

自動車構造の複雑化や衝撃吸収性能の向上により、交通事故に伴う救助件数が減少し、隊員の経験不足が不安視されることを踏まえ、隊員の育成を目的に平成22年から同事業所から提供を頂いたスクラップ車両を使用し、救助資器材を使った車両破壊訓練を実施しています。

3班に分かれ、交差点で乗用車が電柱に激突し、歩行者1名が車の下敷きになった想定で訓練を実施し、マット式エアージャッキを使用し車両を持ち上げ下敷きとなった歩行者1名を救出、次に大型のカッター、隙間を広げるためのスプレッターを使用して、事故車両のドアを切断、また、今年度新たに導入したレシプロソーでフロントガラスを切断し、車内に閉じ込められた人の救出訓練を実施しました。

訓練後、隊員からは「車の構造が日々変化することにより、使用する資器材も変わってきてます。今回様々な救助器具の動作確認をできたことはとても大きな経験になりました。」と話していました。

富良野広域連合富良野消防署南富良野支署

☎52-2119 FAX52-2979

✉fs-nanpu@vesta.ocn.ne.jp



久保田 宏孝さん(北落合) 教育委員に再任されました



9月30日をもって町教育委員会委員の任期が満了となった久保田宏孝さんが再任されました。

久保田さんは、9月20日に開催された第3回町議会定例会において、同委員の任命の同意が得られ、10月1日付で池部町長から辞令が交付されました。

舞台発表とバイキング給食

南富良野町小中学生文化発表会

10月18日、町教育研究会(会長・牧野博巳)幾寅小学校長の主催による「南富良野町小中学生文化発表会」が、保健福祉センターみなくろで行われました。はじめに、各展示作品の表彰が行われ、引き続き各学校ごとに器楽演奏や合唱が発表されたほか、全校の児童生徒による全体合唱も行われ、児童生徒の皆さんは元気な歌声を披露していました。また、閉会式の中では、各学校の代表児童生徒から、「いじめ防止宣言」が発表され、いじめをしない決意を力強く発表し、会場から温かい拍手が送られていました。



舞台発表終了後には、全校の児童生徒が大ホールに集まり、「南富良野のバイキング給食」が行われました。給食は、南富良野産の玉ねぎや人参、大根やミニトマトなどの野菜を使ったメニューで、主食はエゾカブカレールと、ミックス野菜サラダのほか、各自でテーブルに用意された数種類のデザートや果物から自分の好きな物を選んで皿に取り分け、給食を楽しみました。

シリーズ学校だより(130)

各学校の取り組みを紹介します。

南富良野高等学校

宿泊研修

9月11日から13日にかけて1年生26名が国立大雪青少年交流の家で宿泊研修を実施しました。初日はバドミントンなどのスポーツ研修を行った後、まだ見えていない生徒が多かったため映画「鉄道員(ぽっぽや)」を鑑賞しました。夜はDVDや資料を基に将来を考える進路学習を行いました。二日は青い池や不動の滝などを巡る約10kmのハイキングです。当日は絶好のマラソン日和で、コースを散策した後、それぞれ男女とも元気よくスタートし、男子優勝は2年連続で金澤駿吾君(3年)、女子優勝は小日向沙耶さん(1年)の結果はそれぞれですが、完走した生徒は皆達成感に包まれた表情をしていました。

マラソン大会

